

移行対応テーブル説明書

I 移行対応テーブル仕様

1 ファイル形式

各項目を二重引用符（“）で囲み、カンマ（,）で区切ったテキストファイル。

2 ファイル構成

移行対応テーブル（ファイル名：ikou_YYYYMMDD.txt）

3 移行対応テーブル項目説明

本テーブルは、従前からのユーザの「新傷病名マスター」への移行作業を支援するために、廃止傷病名にかかる移行先等の傷病名情報を収録しています。

番号	項目名	最大バイト	項目内容説明
1	移行区分	1	廃止傷病名について、移行先傷病名との対応関係を以下のように分類している。 2:同義語（「旧傷病名管理ファイル」に移行先を収録済） 3:類義語（「旧傷病名管理ファイル」には移行先なし） 4:その他の参考病名（「旧傷病名管理ファイル」には移行先なし） 5:廃止病名
2	旧傷病名コード	7	「旧傷病名管理ファイル」の傷病名コードに同じ。
3	傷病名	60	「旧傷病名管理ファイル」の「傷病名基本名称」に同じ。 漢字モード。
4	変更区分	1	9:廃止傷病名を表す。
5	移行先コード	7	廃止傷病名の移行先の新傷病名コード
6	参考コード	7	・移行区分＝“2”（「同義語」）の場合は、項目番号5の移行先コードと同一コード。 ・移行区分＝“3”又は“4”（「類義語」又は「その他の参考病名」）の場合、廃止傷病名の移行先病名として参考とする傷病名コード（新マスター収載傷病名コード）。
7	参考傷病名	60	項目番号5又は6のコードに対応する移行先又は移行先病名として参考とする傷病名称（新マスター収載傷病名）を収録している。 漢字モード。

Ⅱ 移行対応テーブルの活用方法

1 廃止傷病名と新マスター収載病名について

14年6月の改定では、診療報酬請求と診療情報の電子化に使用する傷病名の標準化を図ることを明確な方針として、「新傷病名マスター」に収載する傷病名と表記の見直しが行なわれました。

このため、廃止傷病名はかなりの数となっていますが、「新傷病名マスター」には、ある病態を代表するに最もふさわしいと考えられる傷病名がいわゆる「リードターム」として収載されています。

廃止傷病名の大部分は、このリードタームであるマスター収載傷病名の同義語又は類義語として整理されていますので、「移行対応テーブル」についてはこの点を踏まえご利用願います。

2 マスター移行作業例と移行対応テーブル等の活用

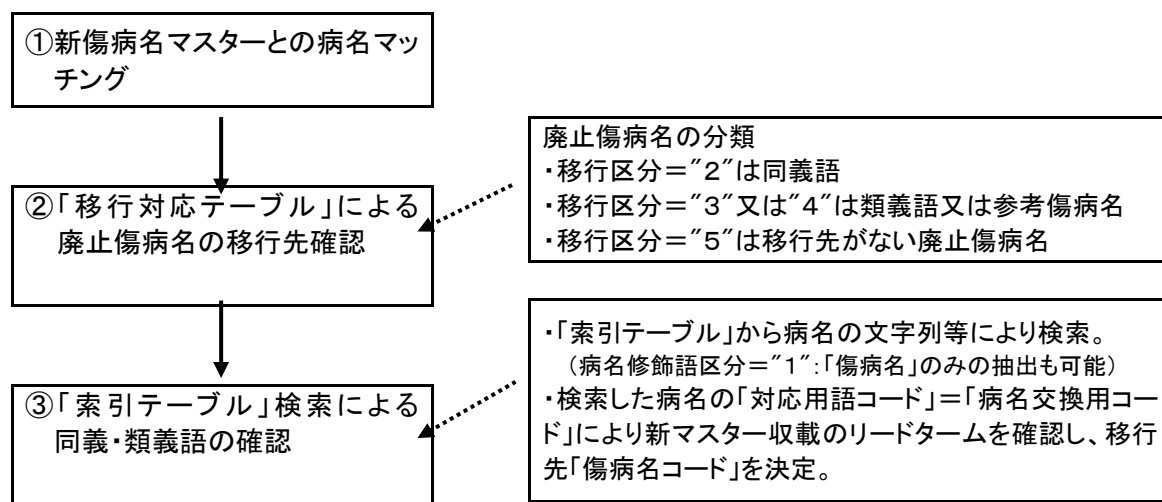
「新傷病名マスター」は、旧マスターからの継承語が約7,600語、追加語が約11,400語となっていますので、移行作業では、まず、新マスターとユーザ使用病名の病名マッチング処理を行うことをお願いします。

その結果、ヒットしない傷病名について、「移行対応テーブル」により廃止傷病名となっているかなどを確認し、移行先傷病名を判断するようお勧めします。

また、廃止傷病名でもなく新マスターにもヒットしない「病名」であっても、その病名の部分文字列等を「索引テーブル」から検索することで、新マスター収載傷病名との対応関係（同義語、類義語、異字体など）が確認できる場合があります。

なお、修飾語との組み合わせが必要な場合は、「修飾語マスター」から必要な修飾語を選択されるようお願いします。

<移行作業例>



◆病名検索ソフト「病名くん」の活用もお勧めします。
(入手先 <http://www.byomei.org/byomei-kun.2.0/index.html>)